

(株)大阪彩都総合研究所 アドバイザーレポート

テーマ

『人生に役立つ平成18年の見方・考え方』

執筆者

システム経営研究所

代表 戸出武

戸出武プロフィール

昭和7年生まれ

昭和34年

慶應義塾大学経済学部卒業

昭和37年

(株)タナベ経営に入社。開発部長を担当。

昭和53年

(財)京都産業情報センターに入社。経営推進部長を担当。

平成元年

(株)三和総合研究所(現 UFJ 総研)に入社。調査役を担当。

平成4年

システム経営研究所設立、現在に至る

人生に役立つ平成 18 年の見方・考え方

～干支「丙戌」にちなんだイイ話～

十二支研究家 戸出 武

平成 18 年（西暦 2006 年）は干支でいえば『丙戌（へいじゅつ・ひのえいぬ）』動物では犬が充てられます。そこで、丙戌の漢字が意味するところを探って新年を占うとともに「犬」にちなんだ故事・ことわざをヒントにした『人生語録』のイイ話を提供することといたします。

干支から見た新年の意義

干支とは、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の「十干」と子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の「十二支」との組み合わせであり、丙は十干の第 3 位、戌は十二支の 11 番目に当たります。

漢字にはその字源を辿ると文字自体に意味があり、特に干支の古体文字は農耕生活の発想に基づく草木の芽生えから収穫に至る植物の生長過程を示しており、それを研究すればどのような年になるのかを類推することができます。

1. 「丙」には 3 つの意味があります。

①丙は左右に足を張った祭祀用機の象形文字で、上部の「一」は机の上の供物を示していますが、植物的に見ると双葉が左右にピンと伸びた状態を表しています。

②丙の上の一は、陽気が一段と伸びるさまを意味し、生命・エネルギーが高まり盛んになることです。

丙に火偏をつけると、炳（あきらか）となりますから、すべてのものが明らかになるといえます。

③丙の下半分は、左右に張りめぐらした「かこい」の中に「入る」の文字を配しており、そこに陽気が入れば陰気な衰弱につながるため、物盛んになれば衰えるという循環の原理を暗示しているのです。

したがって、丙年は物事が盛んとなり、積極的に伸張・進展する年ですが、あまり有頂天になると囲いの中に陽気が入り、やがて衰退するということを忘れてはなりません。

しかし、仮に衰えたとしても、再び盛んになる意を含んでいますから、決して落胆しなくてもよいのです。

2. 「戌」にも 3 つの意味があります。

①戌の原字は、鉞（まさかり）とか斧（おの）を象ったもので、刃物で

作物を刈り取り収穫するという意。秋になって果実が実り、収穫の喜びを表すイメージが強いです。

②戌は、戈（ほこ）と陽気を示す「一」との合意文字であって、茂ると同義語です。戌の月（陰暦9月、新暦11月）は秋なので、植物が繁茂し、豊かな山の幸に恵まれることを示唆します。

③戌は、伐と同じく裁つ・削るなど切るという意があり、草木が茂ると日当たりや風通しが悪くなるので、枝葉を切り払う必要があります。

このように、戌年は不要不急なモノを一掃して徹底した改善を断行し澆刺とした状態になるよう大ナタを振るい、自ら強く生きる意欲を持ち続け、思い切った手を打つ年なのです。

なお、戌が動物の犬に充てられたのは、戌の刻が午後8時ごろを指すところから、太陽が沈んで寝（いぬ）るからきたとか、夜の見張りに立つのが番犬だからとか、狩猟が盛んとなる9月には、猟犬が連想されることから犬が選ばれた、といわれています。

吠えるより笑っていたいイヌ年になるようケン命に努力し、ワンさといふことがありますように、ワン・チャンスを活かしてワン・ダブルな年にしたいものです。

犬にちなんだ人生語録

犬を話題にした故事は人生の機微に迫る「人間学の宝庫」であり、犬のことわざは人間の経験に基づく教訓・戒めなど「先人の知恵」であります。

●陶犬は夜を守るの警なし（形だけにとらわれず本質を見抜こう）

『金楼子』にある言葉。焼き物の犬は、体裁を整え立派に見えても、でくの坊同然で役に立たないものた。見え目の格好よさにとられることなく本質を見極める目利きでなければなりません。

●兎を見て犬を放つ（失敗してもやり直そう）

この故事は『新序』にあり、兎を見つけてから犬を放っても決して遅くはないのです。いったんは失敗したようでも改めてやり直せば取り返せるといった。一度失敗して「もうダメだ」と諦めずに次の手を打てば、その失敗を失敗に終わらせずに済ますことができます。

●犬も歩けば棒に当たる（情報は足で集めよう）

江戸いろはカルタの最初の句にある有名なことわざ。本来の意味は、うろつき回ったり、余計なことをすると災難に遭うことが多いから、でしゃばらないこと、というマイナス思考のたとえです。しかし、逆転の発想転換によってプラス思考をすれば、犬でさえ歩き回れば棒（餌）に出くわすのだから、われわれも積極的に歩いたり、なにかしておれば、意外な幸運にめぐり合う

ことができると思えることです。足で歩いてこそ生の情報が入り、ビジネスチャンスが掴めます。犬にならって有用な情報源への嗅覚を高めるよう努力することが肝要です。犬が歩けば棒にあたり、人が歩けばラッキーなことに出逢う、と前向きに解釈しよう。

● 犬に論語（情報の感性を磨こう）

どんなに素晴らしい話でも、聞き手に感性とか理解力がなければ、ムダだというたとえ。情報の値打ちは、受け手の能力によって大きく左右されます。情報は求めなければ得られませんし、受け手のレベル以上には集められません。だから、情報感度をよくし、アンテナは高く姿勢は低くして価値ある情報を貪欲にキャッチして、それを活かすように心掛けたいものです。

● 犬^{つちくれ}を逐う（原因をつきとめよう）

出典は『涅槃経』。犬が土くれを追うばかりで、それを投げた人を追うことをしないのと同じく、無知な人は結果だけしか見ず、原因を追及しないというたとえ。「結果よければすべてよし」とはいえ、結果の背景にある原因を究明すべきです。小集団活動においてフィッシュ・ボーン（魚の骨）の特性要因図を用いるのも原因把握のための手法なのです。

● 犬の一年は三日（スピードに挑戦しよう）

犬の寿命は人間より短く、一年が人間の三日に相当するほど非常に早い、という意。犬は人間の7倍に相当するスピードで生きていますから、情報化社会の変化の早さ、移り変わりやすさを「ドッグ・イヤー」といいます。時間を短縮する迅速さに価値を見いだすスピードに挑戦しなければなりません。

● 犬が西向きゃ尾は東（例外事項だけを報告しよう）

わかりきったこと、理の当然のことをいうたとえ。わかりきったことをくどくど説明しても時間のムダです。異常なこと、変化のあった「例外事項」だけを簡にして要を得た説明をしよう。

● 犬も人を見れば尾を振る（他人に愛想よくしよう）

犬でさえ人を見れば、しっぽを振って愛想よくします。「笑顔は最良の化粧」「笑って損した者なし」といわれますように、普段からスマイルを心掛けたいものです。

● 尾を振る犬は叩かれず（素直さと柔順さをもとう）

しっぽを振って人になつく犬は、人から叩かれることはありません。われわれも素直で柔順であれば、誰からも憎まれず好かれます。人に好かれるには、相手の立場を理解し、こちらも誠心誠意、尽くすことです。

● 犬一代に狸一匹（チャンスを最大限に活かそう）

犬が一生の間に狸ほどの大きな獲物を捕らえるのは一度くらいしかない

いう意。それだけに滅多にないワンチャンスに巡り合えば、是が非でもそれをものにする執念をもつようにしたいものです。

●^{ろめいけんばい}驢鳴犬吠（くだらないことをしないようにしよう）

『世説新語』にあります。ろばが鳴き、犬が吠えることは、聞くに足らぬ、くだらないことのたとえ。賢明な判断によりくだらないことをしないようにしよう。

● 食いつく犬は吠えつかぬ。（騒ぎたてずに実力を見につけよう）

吠える犬はこわいようでも、実はたいしたことはありません。むしろ黙っている犬はいきなり食いつく恐れがあり、このほうが手ごわいのです。なにもしないものに限って、高言したり大騒ぎするものですから「能ある鷹は爪を隠す」を戒めとして実力を身につけることに専念しよう。

●^{いっけん}一犬影に吠ゆれば百犬声に吠ゆ（流言に惑わされるな）

『潜夫論』に用いられています。一匹の犬が吠えだすと辺りの犬も一斉に吠えだす。一人がいい加減なことを言い出すと、世間はそれを本当のこととして伝え広めてしまいます。「根はなくても花は咲く」事実無根でもうわさは乱れとぶのが世の常ですから流言としてのノイズ情報に惑わされないよう、情報の受け手であるわれわれがしっかりとした選択眼をもつべきです。

● 犬は三日飼えば三年恩を忘れぬ（恩に報いよう）

畜生の犬でさえ飼い主の恩を長く忘れないのに、まして万物の霊長である人間が恩を忘れるようでは言語道断です。他人から種々お世話になれば、一筆礼状を書く、電話で礼を言うのは、恩に報いる当然の心得です。

● 煩悩は家の犬、打てども去らず（欲望を抑制しよう）

出典は『宝物集』。人間の欲望は払いのけようとしても、犬のように執念深く人にまとわりついて、いくら払っても心から離れないたとえ。人間の欲望はなかなか抑えられるものではありませんが、強い意志で、ある程度コントロールすることが可能です。

● 犬馬は難しく、^{きみ}鬼魅は易し（平凡なことを大切にしよう）

片岡鶴太郎が師と仰ぐ松田正平画伯がよく引用した言葉。絵を描くのに犬や馬など誰でも見慣れたものは批判し易いためかえって難しく、見たことのない鬼や魅（妖怪変化）は批判できないので簡単に描けて描くほうも気が楽です。平凡なことを当たり前になすことは大切ですが、なかなか評価されず、特異なこと、目立つことをすれば注目され、もてはやされ易いのです。

●^{けん}犬兎の争い（共倒れとにならないようにしよう）

『戦国策』にある故事。犬が兎をとことん追いかけて、どちらも疲れきって死んだのを農夫が自分のものにしたというたとえ。無益な争いをしているうちに共倒れとなり、その利を第三者に横取りされないようにしたいものです。

● 羊頭狗肉（言行一致を心掛けよう）

『五燈会元』にあり、看板には羊の頭を懸けて上等な肉を売っているかのように思わせながら、実際には悪質な犬の肉を売ってごまかすたとえ。嘘いつわりは必ずメッキがはげます。言行一致を常に心掛けるようにしよう。

成年の歴史上のできごとと生まれた人びと

- 明治43年 日韓併合条約調印、韓国の国号を朝鮮と改める、ハレーすい星地球接近
黒澤明 山村聡 渡辺はま子 白川静 村上元三 大平正芳
三益愛子 大山梅雄 名取洋之助 樋谷繁雄 望月衛
- 大正11年 ワシントン軍縮条約締結、『週刊朝日』『サンデー毎日』創刊、
アインシュタイン来日
瀬戸内寂聴 水木しげる 小野田寛郎 大森実 丹波哲郎
岡部冬彦 山下清 石井好子 内海桂子 青木茂 月丘夢路
鶴見俊輔 楠本憲吉 中内
- 昭和9年 プロ野球誕生、丹那トンネル開通、渋谷に忠犬ハチ公像、
満州国帝制実施、ワシントン条約破棄、室戸台風、西日本干害
軍需景気、
美智子皇后 愛川欽也 宝田明 黒川紀章 大橋巨泉 江国滋
長門裕之 筒井康隆 玉木宏 井上ひさし 田原総一郎 司葉子
中村メイ子 坂上二郎 宮尾すすむ 児玉清 金田正一
石原裕次郎
- 昭和21年 日本国憲法公布、日本商工会議所設立、農地改革、財閥解体、
婦人参政初選挙、旧円封鎖と新円発行切り替え、ラジオのど自慢放送開始、
当用漢字表・現代かなづかい告示、南海大地震、
中国大陸で国共戦争、
三笠宮寛仁 市川団十郎 田淵幸一 山本浩二 堺正章 美川憲一
猪瀬直樹 藤岡弘 大原麗子 西川きよし 中尾ミエ
木の実ナナ 吉田拓郎 マギー司郎 倍賞美津子 大月みやこ
ジョージ・W・ブッシュ米国43代大統領
- 昭和33年 東京タワー完工、聖徳太子像一万円札発行、インスタントラーメン

メン発売、阿蘇山爆発、浅間山大爆発、ナベ底不況、米国人人工衛星一号打ち上げ、

原辰徳 辰巳琢郎 田中義剛 森昌子 萬田久子 宮崎美子
布施博 桜田淳子 陣内孝則 桂小米朝 三屋裕子 小宮悦子
石川さゆり 樋口可南子 かとうかずこ 假屋崎省吾 宮本亜門 小室哲哉 芦川よしみ

昭和45年 大阪で万国博覧会開催、日本総人口1億突破、日航よど号ハイジャック、三島由紀夫割腹自殺、
羽生善治 工藤静香 水野真紀 伊達公子 林家いっ平 上田晋也 吉岡秀隆 中山美穂 西村知美 和久井映見 渡辺満里奈

昭和57年 五百円硬貨発行、東北（大宮・盛岡間）・上越（大宮・新潟間）両新幹線開業、テレカ電話スタート、日航機羽田沖墜落、九州豪雨、冷夏、イラン・イラク戦争、
滝沢秀明 藤原竜也 大塚愛 深田恭子 塚本高史 吉井怜 堀越のり 倉木麻衣 富永愛

平成6年 関西空港開港、大江健三郎ノーベル文学賞受賞、政治改革法成立、向井千秋宇宙へ、PL（製造物責任）法成立、就職氷河期、松本サリン事件、太平洋側大雪、各地で記録的猛暑、干ばつによるコメ不足深刻化

犬にまつわる雑学

- 家畜の中で人類と最古のパートナーである犬の品種は百六十、その原種はオオカミ。
- 中国語では「犬」を使わず「狗」を用います。
- 犬=DOG を逆から綴れば GOD=神。仏典の中で犬は神の子であり、仏弟子であると教えています。
- 阿吽像として対座する魔よけの狛犬は、口を開け物事の始まりを表す阿像が右、口を閉じ物事の終わりを示す吽像が左を原則としていますが、左右逆の例外もあります。
- 平成18年用年賀切手の意匠は、額面80円（寄付金付83円を含む）が宮崎県の郷土玩具「佐土原(さどわら)人形・戌」、額面50円が昭和6年に天然記念物となった「秋田犬」、寄付金付53円は昭和11年に天然記念物となった「柴犬」で、平成17年11月15日に発売。

（参考文献） 『十二支のE話』の正編・続編（戸出武著・京都大龍堂書店刊）